

平成 29 年 1 月 30 日以前に「Country-by-Country Reporting XML Schema (外部リンク)」又は「仮訳 (PDF 形式)」をご覧になった皆様へ

「Country-by-Country Reporting XML Schema (以下「原文」という。)」が次のとおり更新されたこと等により、平成 29 年 1 月 31 日に「仮訳 (PDF 形式)」を更新しました。

主な更新項目は、次のとおりです (下線部分が更新箇所です。)

更新箇所	更新後	更新前																				
更新後原文 14 ページ II e. Address_Type	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Element</th> <th>Attribute</th> <th>Size</th> <th>Input Type</th> <th>Requirement</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>City</td> <td></td> <td></td> <td>xsd:string</td> <td><u>Validation</u></td> </tr> </tbody> </table>	Element	Attribute	Size	Input Type	Requirement	City			xsd:string	<u>Validation</u>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Element</th> <th>Attribute</th> <th>Size</th> <th>Input Type</th> <th>Requirement</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>City</td> <td></td> <td></td> <td>xsd:string</td> <td><u>Optional</u></td> </tr> </tbody> </table>	Element	Attribute	Size	Input Type	Requirement	City			xsd:string	<u>Optional</u>
Element	Attribute	Size	Input Type	Requirement																		
City			xsd:string	<u>Validation</u>																		
Element	Attribute	Size	Input Type	Requirement																		
City			xsd:string	<u>Optional</u>																		
更新後仮訳 9 ページ II e. Address_Type	<table border="1"> <thead> <tr> <th>要素</th> <th>属性</th> <th>サイズ</th> <th>入力データ型</th> <th>要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>City</td> <td></td> <td></td> <td>xsd:string</td> <td><u>検証</u></td> </tr> </tbody> </table>	要素	属性	サイズ	入力データ型	要件	City			xsd:string	<u>検証</u>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>要素</th> <th>属性</th> <th>サイズ</th> <th>入力データ型</th> <th>要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>City</td> <td></td> <td></td> <td>xsd:string</td> <td><u>オプション</u></td> </tr> </tbody> </table>	要素	属性	サイズ	入力データ型	要件	City			xsd:string	<u>オプション</u>
要素	属性	サイズ	入力データ型	要件																		
City			xsd:string	<u>検証</u>																		
要素	属性	サイズ	入力データ型	要件																		
City			xsd:string	<u>オプション</u>																		

更新箇所	更新後	更新前
更新後原文 25 ページ VI. Corrections Introduction 第 3 段落目	<p>In order to facilitate a targeted reporting of corrections, the CbC XML Schema is split into a number of correctable types, allowing correcting specific parts of the CbC Report without needing to resubmit the entire CbC Report. Such correctable types include the <u>top-level elements Reporting Entity, CbC Reports and Additional Info.</u></p>	<p>In order to facilitate a targeted reporting of corrections, the CbC XML Schema is split into a number of correctable types, allowing correcting specific parts of the CbC Report without needing to resubmit the entire CbC Report. Such correctable types include the <u>CorrectableCbCReport_Type, allowing a correction of the information provided by the Reporting Entity and/or the sending jurisdiction on the operations of the MNE Group in a particular Tax Jurisdiction and the CorrectableOrganisationParty_Type , allowing the correction of the identification information of a particular Constituent Entity.</u></p>
更新後仮訳 19 ページ VI. 修正 序文 第 3 段落目	<p>修正目的の報告を容易にするために、CbC XML スキーマは、<u>いくつかの修正可能なタイプに分割されている</u>。これにより、CbC 報告書全体を再送信する必要なく、CbC 報告書の特定の部分を修正することができる。修正可能なタイプには、<u>報告会社、CbC 報告書及び追加情報の最上位要素がある</u>。</p>	<p>修正目的の報告を容易にするために、CbC XML スキーマは、<u>多数の修正可能なタイプに分割されている</u>。これにより、CbC 報告書全体を再送信する必要なく、CbC 報告書の特定の部分を修正することができる。修正可能なタイプには、<u>CorrectableCbCReport_Type（特定の税管轄区内の多国籍企業グループの運営に関して、報告会社や送信元の管轄区によって提供された情報を修正できる）と、CorrectableOrganisationParty_Type（特定の構成会社の識別情報を修正できる）がある</u>。</p>

更新箇所	更新後	更新前
更新後原文 25 ページ VI. Corrections Technical Guidance 第 1 段落目	This section describes how to make automatic corrections by sending a file of corrected data that can be processed in the same systems as the original data that was received. Reference to corrections in this section also includes deletion of <u>records</u> .	This section describes how to make automatic corrections by sending a file of corrected data that can be processed in the same systems as the original data that was received. Reference to corrections in this section also includes deletion of <u>data elements</u> .
更新後仮訳 19 ページ VI. 修正 技術的説明 第 1 段落目	本セクションでは、元のデータを受信した同じシステムで処理できる修正済みデータのファイルを送信することにより、自動的に修正を加える方法について説明する。本セクションで言及する修正には、 <u>レコード</u> の削除も含まれる。	本セクションでは、元のデータを受信した同じシステムで処理できる修正済みデータのファイルを送信することにより、自動的に修正を加える方法について説明する。本セクションで言及する修正には、 <u>データ要素</u> の削除も含まれる。

更新箇所	更新後	更新前
<p>更新後原文 25 ページ VI. Corrections Technical Guidance</p> <p>更新後仮訳 19 ページ VI. 修正 技術的説明</p>	(削除)	<p><u>If an entire data file is to be replaced, it is permitted to first cancel the initial message and to then send a new message with the file containing the accurate data, with no link to the previous records apart from in the message header, which will state ‘cancel and replace’ instead of ‘correct’ .</u></p> <p><u>データ・ファイル全体を交換する場合、最初のメッセージを取り消してから、正確なデータを含むファイルで新たなメッセージを送信することができる。この新規メッセージには、メッセージ・ヘッダー以外には以前のレコードに対するリンクがなく、メッセージ・ヘッダーには「correct」ではなく、「cancel and replace」と記載される。</u></p>
<p>原文 26 ページ VI. Corrections DocSpec Type 第 4 段落目</p>	<p>In case the information in either the Reporting Entity, <u>the CbC Reports or the Additional Info element is not altered, such</u> uncorrected element may be left blank.</p>	<p>In case the information in either the Reporting Entity <u>or the CbC Reports element is not altered, while a correction or deletion is made or new data is provided on the CbC Reports or Reporting Entity element, respectively, the</u> uncorrected element may be left blank.</p>

更新箇所	更新後	更新前
仮訳 19 ページ VI. 修正 DocSpec Type 第 4 段落目	<u>ReportingEntity、CbcrReports 又は AdditonalInfo のい ずれかの要素内の情報が変更されていない場合は、その 修正しない要素は空白のままになるだろう。</u>	<u>CbcrReports 要素または ReportingEntity 要素内の情 報は変更せずに、CbcrReports 要素または ReportingEntity 要素で修正または削除を行うか、新規 データを提供する場合は、修正しない要素は空白のまま にすることができる。</u>
原文 28 ページ VI. Corrections Uniqueness of MessageRefID and DocRefID 第 4 段落目	The unique identifier in the DocRefID is used by the sending Competent Authority [<i>or the Reporting Entity</i>] to identify a unique record and is composed of the country code of the sending jurisdiction, followed by the year to which the data relates and then a dash before a unique identifier.	The unique identifier in the DocRefID is used by the sending Competent Authority [<i>or the Reporting Entity</i>] to identify a unique record and is composed of the country code of the sending jurisdiction <u>[<i>or the Tax Jurisdiction of the Reporting Entity</i>]</u> , followed by the year to which the data relates and then a dash before a unique identifier.
仮訳 21 ページ VI. 修正 MessageRefID と DocRefID の一意性 第 4 段落目	DocRefID の一意の識別子は、一意のレコードを識別する ために送信元の <u>権限ある</u> 当局[または報告会社]によっ て使用される。これは、送信元の管轄区の国コード、デ ータが関連する年、ダッシュ、一意の識別子の順で構成 される。	DocRefID の一意の識別子は、一意のレコードを識別する ために送信元の <u>所轄</u> 当局[または報告会社]によって使 用される。これは、送信元の管轄区[または報告会社の <u>税管轄区</u>]の国コード、データが関連する年、ダッシュ、 一意の識別子の順で構成される。

税務当局及び納税者のための国別報告 XML スキーマのユーザー・ガイド

バージョン 1.0 - 2016 年 3 月

序文

OECD の税源浸食と利益移転 (BEPS: Base Erosion and Profit Shifting) 行動計画 13 では、企業のコンプライアンス・コストを考慮に入れ、税務管理の透明性を高めるために、移転価格文書化に関する規則を策定することを要求している。策定すべき規則には、多国籍企業が共通テンプレートに従って、所得、経済活動および支払う税金の国際的な割り当てに関して必要な情報を全ての関連政府に提出するという要件が含まれる。

この要件に対応して、移転価格文書化に対する 3 層の標準アプローチが策定された。これには、年間連結総収入金額が、7 億 5,000 万ユーロ (または国内通貨のほぼ同等の金額) 以上の多国籍企業に、国別 (CbC) 報告書を提出するという要件が含まれる。この報告書では、毎年、事業を遂行している各税管轄区に対して、収入金額、税引前当期利益の額、納付税額を申告する。また、多国籍企業が、各税管轄区内の従業員数、資本金又は出資金、利益剰余金および有形資産額を報告することも要求される。最後に、多国籍企業が、特定の税管轄区内で事業を遂行しているグループ内の各法人を明記し、各構成会社が従事している事業活動について説明することも要求される。CbC 報告用の承認済みテンプレートを、付録 C に示す。

CbC 報告書は、報告会社の税管轄区で提出し、税務行政執行共助条約、二国間の租税条約または租税情報交換協定 (TIEA) などの政府間メカニズムに従い、自動情報交換を通じて管轄区間で共有する必要がある。限られた状況では、現地での提出を含む二次的なメカニズムをバックアップとして利用できる。

CbC 報告の迅速かつ統一的な導入を容易にし、CbC 報告書の電子的な作成、提出および交換を可能とするために、現在の CbC XML スキーマおよび関連するユーザー・ガイドが作成された。

スキーマとは、情報を電子的に格納し、送信するためのデータ構造である。一般に、この目的のために XML (eXtensible Markup Language) が利用される。この例としては、OECD の共通報告標準 XML スキーマ、米国の FATCA XML スキーマおよび EU の Fisc 153 形式がある。

本ユーザー・ガイドでは、CbC XML スキーマ・バージョン 1.0 で報告するために各 CbC データ要素に含める必要がある情報について説明する。本書ではまた、自動的に処理できる、ファイル内のデータ項目を修正する方法に関する説明も記載する。

本ユーザー・ガイドで使用され、英語版で頭文字が大文字の全ての用語は、BEPS 行動13に関する最終報告書(Final Report on BEPS Action 13)に定義されている。

CbC ユーザー・ガイドと CbC XML スキーマの関係

本ユーザー・ガイドは、スキーマに基づいて論理的なセクションに分かれており、特定のデータ要素と、そのデータ要素について記述する属性に関する情報を提供する。

国別報告 XML スキーマ情報は、次のセクションから構成される。

- I 送信者、受信者、メッセージ・タイプ、報告期間を含むメッセージ・ヘッダー
- II 各構成会社について提供される識別情報
- III CbC XML スキーマの本文。これには、CbC 報告テンプレートの規定に従って、多国籍企業グループの活動の概要に加えて、報告会社および各構成会社に関する報告可能な情報が含まれる。

CbC XML スキーマは、権限ある当局間の CbC 報告書の自動交換に使用するために設計されている。また、CbC XML スキーマは、報告会社による国内税務当局への国内報告用にも使用されるかもしれない。国内報告のみに関連する項目は、[大括弧]内に示す。

各データ要素とその属性に対する要件フィールドでは、その要素が CbC XML スキーマにおいて検証またはオプションのいずれであるかを示す。

「**検証**」要素は、ファイル内の全てのデータ・レコードに対して必要であり、自動検証チェックを実行できる。送信者は、XML ツールを使用してデータ・ファイル内容の技術的チェックを実行し、全ての検証要素が存在することを確認する必要がある。存在しない場合は、ファイルを修正しなければならない。受信者も、全ての検証要素の存在をチェックし、検証要素が欠けている場合は、ファイルを拒否することができる。一部の要素は「**(オプション) 必須**」と表示され、本ユーザー・ガイドのそれぞれの要素で詳細に指定するように、CbC 報告書で原則として必須であるが、特定の状況に限ることを示している。したがって、(全てではないが)ほとんどの状況で(オプション) 必須の要素があるため、これらをチェックするシンプルな IT 検証プロセスが存在しないことがある。たとえば、ReportingEntity 要素と CbCReports 要素には、「オプション(必須)」というラベルが付いている。これは、他の要素を修正する際にいずれかの要素を空白のままにする場合を除き、原則的に両方の要素が必須であることを示している(詳細については、後述の「修正」セクションを参照)。その他の「**オプション**」要素は、推奨されるが、必須ではない。一定の状

況では、タイプ間の選択肢が示されることがあり、そのいずれかを使用しなければならない(AddressFix か AddressFree の選択など)。

CbC ユーザー・ガイドのセクション V および VI には、それぞれ情報の表記変換および修正に関する詳細説明が記載されている。

CbC ユーザー・ガイドの付録 A では、全ての要素を含む CbC XML スキーマを図示している。見出しの横の数字は、各要素で提供される情報に関して、詳細説明を示すユーザー・ガイド本文の対応するセクション番号である。

CbC ユーザー・ガイドの付録 B には、CbC XML スキーマの名前空間の用語集を記載している。

CbC XML スキーマ情報

I. メッセージ・ヘッダー

メッセージ・ヘッダーの情報は、メッセージを送信する権限ある当局と、メッセージを受信する権限ある当局を識別する。これは、メッセージが作成された日時、報告書の対象期間(通常は会計年度)および報告書の性質(原本、修正、補足など)を指定する。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
SendingEntityIN			xsd:string	オプション

[CbC 報告の場合、SendingEntityIN 要素は、権限ある当局間の交換では使用されないが、国内報告では必須であろうし、(国内 TIN または IN などによって)送信先の権限ある当局に対して報告する報告会社を識別するであろう。]

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
TransmittingCountry		2 文字	iso:CountryCode_Type	検証

このデータ要素は、メッセージを送信する権限ある当局の管轄区を識別する。これには、ISO 3166-1 Alpha 2 標準に基づいて、2 文字のアルファベットによる国コードおよび国名リスト¹を使用する。

[国内報告では、この要素は国内の国コードとなる。]

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ReceivingCountry		2 文字	iso:CountryCode_Type	検証

このデータ要素は、メッセージの指定受信者である権限ある当局の管轄区を識別する。これには、ISO 3166-1 Alpha 2 標準に基づいて、2 文字のアルファベットによる国コードを使用する。

CbC 報告の場合、CbC 報告書内の報告会社によって提供される情報に基づいて、構成会社が所在することが判別される全ての管轄区を、このフィールドに入力する必要がある。送信元の権限ある当局が、CbC 報告の目的のための有効な交換関係に基づいて、特定の年に CbC 報告書を実際に受信することができる管轄区を決定する。

¹ 以下の免責文は、CbC XML スキーマにおける ISO 国コード・リストの全ての使用に適用される。実務的な理由で、このリストは ISO 3166-1 国リストに基づいている。このリストの使用は、OECD による、記載された領域の法的状況に関するいかなる見解の表明も黙示することにはならない。その内容によって、何らかの領域に対する主権や状況、国境および境界の決定、都市または地域の名称に影響が生じることはない。

[国内報告では、この要素は国内の国コードとなる。]

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
MessageType			cbc:MessageType_EnumType	検証

このデータ要素は、送信するメッセージのタイプを指定する。このフィールドに入力できる唯一のエントリは、「CbC」である。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Language			iso:LanguageCode_Type	オプション(必須)

このデータ要素は、ISO 639 - Part 1 (ISO 639-1:2002)に従い該当の言語コードを示すことにより、(ある場合には)AdditionalInfo 要素の内容が提供されている言語を指定する。「BEPS 行動 13 に関する最終報告書(Final Report on BEPS Action 13)」に従って、送信する CbC 報告書で使用する言語は、送信元管轄区の現地法によって決定される。CbC 報告書に含まれる情報の最も広範な利用を可能にするために、当該現地法に基づいて許可される場合は、英語を使用することが望まれる。情報の表記変換に関する詳細の説明については、セクションVを参照。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Warning		最大 4,000 文字	cbc:StringMaxLengthForLongText_Type	オプション

このデータ要素は、CbC メッセージ内容の使用についての特定の注意事項を入力できるフリー・テキスト・フィールドである。報告されるデータが、1 会計年度以外の期間を対象とする場合、「ten month period」のように、この情報をここに説明として提供できる。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Contact			xsd:string	オプション

このデータ要素は、メッセージの送信者(送信元の権限ある当局[または国内報告の場合は、報告会社])についての特定の連絡先情報を入力できるフリー・テキスト・フィールドである。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
MessageRefID			xsd:string	検証

このデータ要素は、送信する特定のメッセージを識別する送信者の一意の識別番号(送信者によって作成される)を取得する、フリー・テキスト・フィールドである。この識別子によって、問題または修正の必要が生じた場合に、送信者と受信者の両方が、後で特定のメッセージを識別することができる。権限ある当局間の CbC 報告書の交換の場合、最初の部分は送信元の権限ある当局の管轄区に対する国コード、2 番目の部分はその情報に関連する年、3 番目の部分は送信元の管轄区で作成された一意の識別子にする必要がある。

[CbC スキーマを国内報告に使用する場合、送信元の報告会社は、一意の識別子を確実に作成する必要がある。これは、報告会社の税管轄区の権限ある当局によって提供される報告会社の識別番号によって補完することができる。]

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
MessageTypeIndic			cbc:CbcMessageTypeIndic_EnumType	オプション

このデータ要素で、送信者が送信するメッセージのタイプを定義できる。DocTypeIndic 要素でもデータが新規または修正済みのいずれであるかが識別されるため、これはオプションの要素である(後述の「修正プロセスに関する説明」を参照)。メッセージは、全て新規データまたは全て修正済みデータが入っているものとしなければならない。

使用可能な値は次のとおり。

- CBC401 = メッセージには新規情報が入っている
- CBC402 = メッセージには、以前に送信した情報の修正が入っている

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
CorrMessageRefID			xsd:string	オプション

このデータ要素は、CbC 報告には使用しない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ReportingPeriod			xsd:date	検証

このデータ要素では、YYYY-MM-DD 形式で、メッセージに関連する報告期間(多国籍企業グループの会計年度)の最終日を識別する。たとえば、多国籍企業グループの会計年度が 2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までである場合は、「**2017-03-31**」のように入力する。例外的に、報告期間が 12 カ月の会計年度全体に対応しない場合、報告期間の長さは、Warning 要素で示す必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Timestamp			xsd:dateTime	検証

このデータ要素は、メッセージが編集された日付および時間を識別する。この要素は通常、ホスト・システムによって自動的に入力される。使用する形式は、YYYY-MM-DD'T'hh:mm:ss である。秒未満の値は使用しない。例:**2018-02-15T14:37:40**

II. OrganisationParty_Type

この複合タイプは、CbC 報告書の一部として情報が提供される報告会社を含め、各構成会社を識別するために使用する。

これは、次のデータ要素から構成される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ResCountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	検証

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
TIN		最低 1 文字	cbc:TIN_Type	検証

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
IN		最低 1 文字	cbc:OrganisationIN_Type	オプション

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Name			cbc:NameOrganisation_Type	検証

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Address			cbc:Address_Type	オプション

IIa. ResCountryCode

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ResCountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	検証

このデータ要素には、構成会社の税管轄区(または、構成会社である恒久的施設の場合は、その恒久的施設が課税される管轄区)における国コードを含める必要がある。

IIb. TIN (TIN_Type)

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
TIN		最低 1 文字	cbc:TIN_Type	検証

このデータ要素は、構成会社の税管轄区の税務管理で使用される納税者識別番号(TIN)を記載する。関連する構成会社はその税管轄区の税務管理で使用される TIN を有する場合は、データの正しい使用とデータの品質を確保するために、その TIN の記載が必須となる。構成会社が TIN を持っていない場合は、値「NOTIN」を入力する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
TIN	issuedBy	2 文字	iso:CountryCode_Type	オプション(必須)

この属性は、TIN を発行した管轄区を記述する。

IIc. Entity IN (OrganisationIN_Type)

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
IN		最低 1 文字	cbc:OrganisationIN_Type	オプション

このデータ要素は、会社登記番号またはグローバル法人識別番号(EIN)など、その他の IN を利用できる場合に、記載する(繰り返し記載する)ことができる。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
IN	issuedBy	2 文字	iso:CountryCode_Type	オプション

この属性は、IN を発行した管轄区を記述する。発行元の管轄区が不明な場合、この要素は空白のままにすることができる。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
IN	INType		xsd:string	オプション

この属性は、送信する IN のタイプ(EIN など)を定義する。

IIId. 組織名

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Name			cbc:NameOrganisation_Type	検証

この要素には、基本定款または類似の文書に記載されている国内での法的形態の呼称を含めた構成会社の正式名称を記載する必要がある。構成会社が恒久的施設である場合、その構成会社の名称の後に、「(P.E.)」を付ける必要がある。

IIe. Address_Type

CbC XML スキーマには、AddressFix と AddressFree という、Address_Type の 2 つの代替的オプションがある。原則として、全ての場合に AddressFix を使用する。ただし、報告会社が構成会社の住所の各部分を明確にする立場にない場合は、AddressFree タイプを使用することができる。

CbC 報告テンプレートでは、各構成会社の住所を報告することは要求されないが、CbC XML スキーマのデータを確実に高品質にして、データが正確に一致し、受信先の管轄区で適切に使用されるように、この情報を記載することが強く推奨される。

このデータ要素は、構成会社の恒久的な住所である。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
CountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	検証

このデータ要素は、構成会社に関連付けられた国コードを記載する。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
AddressFree			xsd:string	オプション

このデータ要素には、フリー・テキストで住所情報を入力できる。「AddressFree」にデータを入力する場合、全ての入手可能な住所の詳細を、住所の各部分の区切り文字として空白、スラッシュまたは改行を使用して、1 つのバイト文字列として記載する必要がある。このオプションは、AddressFix 形式でデータを表示できない場合にのみ使用すること。

注: AddressFix を選択した場合は、関連する固定要素を使用する代わりに、AddressFree 要素で構成会社の詳細な番地を入力する選択肢がある。その場合でも、都道府県、市町村、および郵便番号の情報は、適切な固定要素に入力する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
AddressType	legalAddressType		stf:OECDLegalAddressType_EnumType	オプション

OECDLegalAddressType_EnumType

これは、住所の属性に対するデータ型である。住所の法的特性(自宅、職場など)を示すのに役立つ。

使用可能な値は次のとおり。

- OECD301 = 自宅または職場
- OECD302 = 自宅
- OECD303 = 職場
- OECD304 = 登録事務所
- OECD305 = 指定なし

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Street			xsd:string	オプション

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
BuildingIdentifier			xsd:string	オプション

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
SuiteIdentifier			xsd:string	オプション

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
FloorIdentifier			xsd:string	オプション

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
DistrictName			xsd:string	オプション

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
POB			xsd:string	オプション

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
PostCode			xsd:string	オプション

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
City			xsd:string	検証

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
CountrySubentity			xsd:string	オプション

AddressFix タイプは、上記のデータ要素で構成される。

III. CbCBody

CbC Body には、CbC 報告書を提出する多国籍企業グループの報告会社を含む構成会社と、多国籍企業グループ全体および個々の構成会社の両方の主要指標に関する情報が含まれる(CbC 報告テンプレートに記載欄がある)。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
CbcBody			cbc:CbcBody_Type	検証

CbcBody 要素は、次の要素から構成される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ReportingEntity			cbc:CorrectableReportingEntity_Type	オプション(必須)

ReportingEntity 要素には、CbC 報告書の作成と提出を確実に、多国籍企業グループの法人の識別情報が含まれる。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
CbcReports			cbc:CorrectableCbcReport_Type	オプション(必須)

CbcReports 要素には、多国籍企業グループが事業運営している各税管轄区について、主要指標の概要と、全ての構成会社のリストおよびそれぞれの事業活動が含まれる。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
AdditionalInfo			cbc:CorrectableAdditionalInfo_Type	オプション

AdditionalInfo 要素には、報告会社が受信先の権限ある当局に提供することを希望する CbC 報告書の追加情報を、フリー・テキスト形式で入力できる。

IIIa. ReportingEntity

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ReportingEntity			cbc:CorrectableReportingEntity_Type	オプション(必須)

上述のように、このデータ要素は、CbC 報告における報告会社とその役割を識別する。CbcReports 要素で、データを修正または削除する場合や新規データを入力する場合、これは空白のままになるだろう(後述の「修正」セクションの詳細説明を参照)。

この要素は、以下で構成される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Entity			cbc:OrganisationParty_Type	検証

この要素には、報告会社の識別情報が含まれる。Entity 要素では、識別情報を提供するために OrganisationParty_Type が使用される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ReportingRole			cbc:CbcReportingRole_EnumType	検証

ReportingRole 要素は、CbC 報告書の提出に関する、報告会社の役割を指定する。使用可能な値は次のとおり。

- CBC 701 - 最終親会社
- CBC 702 - 代理親会社
- [CBC 703 - ローカル・ファイリング] - この値は、報告会社の税管轄区で、CbC 報告書のローカル・ファイリングのために CbC XML スキーマの利用が必須であり、報告会社の管轄区の国内法に基づいて、かかるローカル・ファイリングが要求される場合にもみ使用される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
DocSpec			stf:DocSpec_Type	検証

DocSpec は、送信される CbC メッセージ内の特定の報告書を識別する。これにより、修正が必要な報告書を識別できる(詳細の説明については、後述の「修正」セクションを参照)。

IIIb. CbCReports

上述のように、CbcReports 要素には、多国籍企業グループが事業運営している各税管轄区について、主要指標の概要と、全ての構成会社のリストおよびそれぞれの事業活動が含まれる。CbcReports 要素は、多国籍企業グループが 1 社以上の構成会社を通じて事業運営している各税管轄区に対して、繰り返す必要がある。ReportingEntity 要素でデータを修正した場合、これは空白のままになるだろう(後述の「修正」セクションの詳細説明を参照)。

全ての金額は、小数点なしの整数単位で記載し、マイナスの値は、金額の前に「-」記号を入力することによって記載する必要がある(USD-1000 など)。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
CbcReports			cbc:CorrectableCbcReport_Type	オプション(必須)

CbcReports 要素は、次の要素から構成される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
DocSpec			stf:DocSpec_Type	検証

DocSpec は、送信される CbC メッセージ内の特定の報告書を識別する。これにより、修正が必要な報告書を識別できる(詳細の説明については、後述の「修正」セクションを参照)。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ResCountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	検証

このデータ要素には、主要な指標の概要と、構成会社およびそれぞれの事業活動のリストを作成する税管轄区の国コードを含める必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Summary				検証

Summary 要素には、関連する税管轄区内における多国籍企業グループの事業活動の主要指標が含まれる(CbC 報告テンプレートに記載欄がある)。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ConstEntities			cbc:ConstituentEntity_Type	検証

ConstEntities 要素には、税管轄区で事業運営している構成会社(報告会社を含む)のリストと、それぞれの事業活動が含まれる(CbC 報告テンプレートに記載欄がある)。

IIIb. CbCReports - Summary

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Summary				検証

Summary 要素は、特定の税管轄区における多国籍企業グループの活動の主要指標を記載する。これは、次の要素から構成される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Revenues				検証

Revenues 要素およびその下位要素で提供する情報の追加的詳細について、以下に記載する。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ProfitOrLoss			cbc:MonAmnt_Type	検証

ProfitOrLoss 要素には、関連する税管轄区に税法上の居住者として存在する全ての構成会社について、税引前利益または損失の合計を入力する必要がある。税引前利益または損失には、全ての特別利益および特別損失の項目を含める必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ProfitOrLoss	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	検証

全ての金額には、ISO 4217 Alpha 3 標準に基づいて、適切な 3 文字の通貨コードを付けなければならない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
TaxPaid			cbc:MonAmnt_Type	検証

TaxPaid 要素には、関連する税管轄区に税法上の居住者として存在する全ての構成会社によって、関連する会計年度中に実際に支払われた所得に対する税の合計額を記載する必要がある。支払い済みの税金には、所在地の税管轄区および全ての他の税管轄区に対して、構成会社によって直接支払われた税金を含める必要がある。支払い済みの税金には、構成会社への支払いに関連して、その他の会社(関連企業および独立企業)によって支払われた源泉徴収税を含める必要がある。したがって、税管

轄区 A に所在する会社 A が税管轄区 B で利子所得を得た場合、会社 A は、税管轄区 B で源泉徴収された税金を報告する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
TaxPaid	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	検証

全ての金額には、ISO 4217 Alpha 3 標準に基づいて、適切な 3 文字の通貨コードを付けなければならない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
TaxAccrued			cbc:MonAmnt_Type	検証

TaxAccrued 要素には、関連する税管轄区に税法上の居住者として存在する全ての構成会社について、報告年度における課税対象の利益または損失に関して記録された当期発生税金費用の合計を記載する必要がある。当期税金費用には、現行年度の営業のみを反映し、繰延税または未確定の租税債務の準備金を含めてはならない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
TaxAccrued	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	検証

全ての金額には、ISO 4217 Alpha 3 標準に基づいて、適切な 3 文字の通貨コードを付けなければならない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Capital			cbc:MonAmnt_Type	検証

Capital 要素には、関連する税管轄区に税法上の居住者として存在する全ての構成会社について、資本金又は出資金の合計を記載する必要がある。恒久的施設に関しては、恒久的施設である法人が資本金又は出資金を報告する必要がある。ただし、規制上の目的のために、恒久的施設の税管轄区に、所定の資本要件がある場合を除く。その場合、恒久的施設に属する資本は、AdditionalInfo 要素で詳細に指定することができる。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Capital	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	検証

全ての金額には、ISO 4217 Alpha 3 標準に基づいて、適切な 3 文字の通貨コードを付けなければならない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Earnings			cbc:MonAmnt_Type	検証

Earnings 要素には、関連する税管轄区に税法上の居住者として存在する全ての構成会社について、年度末時点の利益剰余金の合計を記載する必要がある。恒久的施設に関しては、恒久的施設である法人が利益剰余金を報告する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Earnings	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	検証

全ての金額には、ISO 4217 Alpha 3 標準に基づいて、適切な 3 文字の通貨コードを付けなければならない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
NbEmployees			xsd:integer	検証

NbEmployees 要素には、関連する税管轄区に税法上の居住者として存在する全ての構成会社について、常勤職換算(FTE)ベースで従業員の合計数を記載する必要がある。従業員数は、当該年度末時点、当該年度の平均雇用レベルまたは税管轄区全体で毎年一貫して適用されるその他基準に基づいて報告することができる。この目的のために、構成会社の通常の営業活動に参加している独立契約者は、従業員として報告することができる。従業員数の合理的な四捨五入または概算は許可される。ただし、かかる四捨五入または概算によって、さまざまな税管轄区にわたる従業員の相対的な分布が大きく歪められないことを条件とする。年々および法人間で、一貫した方法を適用する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Assets			cbc:MonAmnt_Type	検証

Assets 要素には、関連する税管轄区に税法上の居住者として存在する全ての構成会社について、有形資産の正味帳簿価格の合計を記載する必要がある。恒久的施設に関しては、恒久的施設が所在する税管轄区を参照して、資産を報告する必要がある。この目的のための有形資産には、現金または現金同等物、無形資産または金融資産は含まれない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Assets	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	検証

全ての金額には、ISO 4217 Alpha 3 標準に基づいて、適切な 3 文字の通貨コードを付けなければならない。

IIIb. CbCReports – Summary – Revenues

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Revenues				検証

Revenues 要素には、次の情報を入力する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Unrelated			cbc:MonAmnt_Type	検証

Unrelated 要素には、関連税管轄区内の多国籍企業グループの全構成会社について、非関連者との取引から生じた収入の合計を示す必要がある。収入には、商品および資産の売却、役務、ロイヤルティ、利子、プレミアムおよびその他の金額からの収入を含める必要がある。支払人の税管轄区で配当として扱われる他の構成会社から受け取った支払いは、収入から除外する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Unrelated	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	検証

全ての金額には、ISO 4217 Alpha 3 標準に基づいて、適切な 3 文字の通貨コードを付けなければならない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Related			cbc:MonAmnt_Type	検証

Related 要素には、関連税管轄区内の多国籍企業グループの全構成会社について、関連企業との取引から生じた収入の合計が示される。収入には、商品および資産の売却、役務、ロイヤルティ、利子、プレミアムおよびその他の金額からの収入を含める必要がある。支払人の税管轄区で配当として扱われる他の構成会社から受け取った支払いは、収入から除外する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Related	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	検証

全ての金額には、ISO 4217 Alpha 3 標準に基づいて、適切な 3 文字の通貨コードを付けなければならない。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Total			cbc:MonAmnt_Type	検証

Total 要素には、Unrelated 要素と Related 要素の合計を入力する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
Total	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	検証

全ての金額には、ISO 4217 Alpha 3 標準に基づいて、適切な 3 文字の通貨コードを付けなければならない。

IIIb. CbCReports – Constituent Entities

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ConstEntities			cbc:ConstituentEntity_Type	検証

ConstEntities 要素は、関連する税管轄区に税法上の居住者として存在するまたは恒久的施設として課税の対象となる、各構成会社(該当する場合は報告会社を含む)について繰り返し記載する。これは、次の要素から構成される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
----	----	-----	--------	----

ConstEntity			cbc:OrganisationParty_Type	検証
-------------	--	--	----------------------------	----

ConstEntity 要素には、OrganisationParty_Type を使用して構成会社の識別情報を入力する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
IncorpCountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	オプション(必須)

IncorpCountryCode 要素には、その法律に基づいて多国籍企業グループの構成会社が設立または法人化された税管轄区を示す必要がある(当該税管轄区が、構成会社の所在する税管轄区とは異なる場合)。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
BizActivities			cbc:CbcBizActivityType_EnumType	検証

BizActivities 要素には、関連する税管轄区で、構成会社によって遂行されている主要な事業活動の性質を、次のコードから 1 つ以上を選択することにより指定する必要がある。

- CBC501 - 研究開発
- CBC502 - 知的財産の保有又は管理
- CBC503 - 購買又は調達
- CBC504 - 製造又は生産
- CBC505 - 販売、マーケティング又は物流
- CBC506 - 管理、運営又はサポート・サービス
- CBC507 - 非関連者への役務提供
- CBC508 - グループ内金融
- CBC509 - 規制金融サービス
- CBC510 - 保険
- CBC511 - 株式・その他の持分の保有
- CBC512 - 休眠会社
- CBC513 - その他

CBC 513 - その他は、1 つ以上のコードを選択することによって、構成会社の事業活動を正確に示すことができない場合にのみ選択すること。CBC513 - その他のコードを選択した場合は、OtherEntityInfo 要素に、当該構成会社の事業活動に関する追加情報を記載しなければならない。BizActivities 要素を修正した場合、OtherEntityInfo 要素に関連する情報が記載されていたときは、この要素にも対応する修正が加えられるように注意する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
OtherEntityInfo		最大 4,000 文字	cbc:StringMaxLengthForLongText_Type	オプション

OtherEntityInfo 要素には、特定の構成会社に関連する追加の関連情報をフリー・テキスト形式で入力することができる。追加情報が特定の構成会社だけでなく、多国籍企業グループ全体にも関係する場合、その情報は代わりに AdditionalInfo 要素に記載する必要がある。

IIIc. Additional Info

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
AdditionalInfo			cbc:CorrectableAdditionalInfo_Type	オプション

AdditionalInfo 要素には、必要と思われる、または CbC XML スキーマの他の要素で提供した必須情報の理解を容易にする追加の簡潔な情報または説明をフリー・テキスト形式で入力することができる。ただし、特定の 1 つの構成会社のみに関係する情報ではないことが条件。そのような情報は、当該構成会社の OtherEntityInfo 要素に入力する必要がある。ただし、AdditionalInfo 要素に入力した情報には、提供した情報と、特定の管轄区や CbC 報告書の Summary 要素の特定の要素との関連付けを容易にするために、以下に記すように「タグ」を付けることができる。

AdditionalInfo 要素は、次の要素から構成される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
DocSpec			stf:DocSpec_Type	検証

DocSpec は、送信される CbC メッセージ内の特定の報告書を識別する。これにより、修正が必要な報告書を識別できる(詳細の説明については、後述の「修正」セクションを参照)。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
OtherInfo		最大 4,000 文字	cbc:StringMaxLengthForLongText_Type	オプション

OtherInfo 要素には、フリー・テキスト形式で追加の情報を入力できる。エントリごとに、最大 4,000 文字を使用できる。より多くのスペースが必要な場合は、AdditionalInfo 要素を必要に応じて繰り返すことができる。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
ResCountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	オプション

各 AdditionalInfo 要素について、提供する情報が、1 つ以上の管轄区に個別に関連することを示すことができる。その場合は、ResCountryCode 要素に関連する国コードを入力する必要がある。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
SummaryRef			cbc:CbcSummaryListElementsType_Enum Type	オプション

また、各 AdditionalInfo 要素について、以下の 1 つ以上の対応する値を選択することにより、提供する情報が、Summary 要素の 1 つ以上の特定の要素に個別に関連することを示すこともできる。これにより、関連する AdditionalInfo 要素に含まれる情報に「タグ」が付けられ、受信先の管轄区による CbC 報告書の審査が容易になる。

Summary 要素の構造を反映して、使用できる値は次のとおり。

- CBC601 - 収入金額 - 非関連者
- CBC602 - 収入金額 - 関連者
- CBC603 - 収入金額 - 合計
- CBC604 - 税引前当期利益又は損失
- CBC605 - 納付税額
- CBC606 - 発生税額
- CBC607 - 資本金又は出資金
- CBC608 - 利益剰余金
- CBC609 - 従業員数
- CBC610 - 有形資産額(現金及び現金同等物除く)

IV. 通貨

CbC 報告書に示されるすべての金額は、1 つの同じ通貨(報告する多国籍企業の通貨)で報告する必要がある。報告の基礎として法定の財務諸表を使用する場合、すべての金額は、AdditionalInfo 要素に記載される年の平均為替レートで、報告する多国籍企業の所定の機能通貨に換算しなければならない。

V. 表記変換

送信元の管轄区と受信先の管轄区で共通の文字体系を使用していないために表記変換が必要な場合、権限ある当局は、表記変換を実施する方法について合意することができる。かかる合意がない場合、送信元の管轄区は、要求に応じて、ISO 8859 に指定される表記変換に関する国際標準に従ってラテン文字ではない国内の文字体系または文字表記をラテン文字体系に変換する必要がある。送信元の管轄区は、選択する場合、各レコード内で、ラテン文字ではない国内の文字体系または文字表記とラテン文字表記の両方で、指定するデータ(名前や住所など)を送信することができる。受信先の管轄区も、ラテン文字とラテン文字ではない自国の文字体系または文字表記の間で変換する準備をする必要がある。

VI. 修正

序文

報告会社および/または送信元の管轄区は、不正確な情報に気付いた場合、それが報告会社の識別情報、構成会社およびそれぞれの事業活動に関して提供される情報、または税管轄区内にある多国籍企業グループの活動の概要のいずれに関係する場合でも、修正を加える必要がある。特定の会計年度に対して報告会社により CbC 報告書が提出される前に誤りが見つかった場合は、本セクションに定める修正は必要ない。

しかし、CbC 報告書の提出後に誤りが見つかった場合は、本セクションに定めるガイダンスに従って、CbC 報告書の一部に対する調整が必要になる。

修正目的の報告を容易にするために、CbC XML スキーマは、いくつかの修正可能なタイプに分割されている。これにより、CbC 報告書全体を再送信する必要なく、CbC 報告書の特定の部分を修正することができる。修正可能なタイプには、報告会社、CbC 報告書及び追加情報の最上位要素がある。

技術的説明

本セクションでは、元のデータを受信した同じシステムで処理できる修正済みデータのファイルを送信することにより、自動的に修正を加える方法について説明する。本セクションで言及する修正には、レコードの削除も含まれる。

修正する要素を識別するために、最上位要素 ReportingEntity、CbCReports および AdditonallInfo には、修正に必要な情報が格納される DocSpec_Type の要素が含まれる。

DocSpec Type

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
DocSpec			stf:DocSpec_Type	検証

DocSpec は、送信される CbC メッセージ内の特定の報告書を識別する。これにより、修正が必要な報告書を識別できる。DocSpec 要素は、次の要素から構成される。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
DocTypeIndic			stf:OECDDocTypeIndic_EnumType	検証

この要素は、提出するデータのタイプを指定する。使用可能なエントリは、次のとおり。

- OECD0 = 再送信データ(CbC XML スキーマでは使用せず)
- OECD1 = 新規データ
- OECD2 = 修正されたデータ
- OECD3 = データの削除
- OECD10 = 再送信テスト・データ(CbC XML スキーマでは使用せず)
- OECD11 = 新規テスト・データ
- OECD12 = 修正されたテスト・データ
- OECD13 = テスト・データの削除

修正されたメッセージには、新規レコード(OECD1)または修正/削除(OECD2 および OECD3)のいずれかを入れることができる。ベスト・プラクティスとして、新規データと修正/削除データを同じメッセージの一部として送信することは避けるべきである。

ReportingEntity、CbCReports 又は AdditonallInfo のいずれかの要素内の情報が変更されていない場合は、その修正しない要素は空白のままになるだろう。

テスト・データが「ライブ」データと混合されないように、コード OECD10～OECD13 は、合意されたテスト期間中、またはテストに関する二国間の合意に基づく場合にのみ使用すること。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
DocRefID		最低 1 文字	xsd:string	検証

DocRefID は、ドキュメント(1 つのレコードおよびその全ての子データ要素)に対する一意の識別子である。修正(または削除)を含む要素には、今後の参照のために新たな一意の DocRefID が必要である。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
CorrDocRefID		最低 1 文字	xsd:string	オプション

CorrDocRefID は、修正/削除される要素の DocRefID を参照する。これは常に、送信されたレコードの最新のリファレンス(DocRefID)を参照しなければならない。

この方法により、各修正が以前のバージョンを完全に置き換えるため、一連の修正または変更を処理できる。後述の CbC 修正の例で、これが実際にどのように機能するかを示す。

要素	属性	サイズ	入力データ型	要件
CorrMessageRefID		最低 1 文字	xsd:string	オプション

DocRefID が空間および時間内で一意であるため、この要素は DocSpec レベルの CbC 報告書には使用しない。

MessageRefID と DocRefID の一意性

メッセージとレコードが確実に識別され、修正されるために、MessageRefID と DocRefID は、空間および時間内で一意でなければならない(同じ参照識別子を有する他のメッセージまたはレコードが存在してはならない)。

MessageRefID 識別子には、特定のレコードの識別を可能にするために送信者が使用するあらゆる情報を含めることができるが、送信元の管轄区の国コードから始めて、次にデータが関連する年、そしてダッシュ、一意の識別子の順に記載すべきである。[CbC XML スキーマを国内報告に使用する場合、送信元の報告会社は、上記の説明に従って一意の識別子を確実に作成する必要がある。これは、報告会社の税管轄区の権限ある当局によって提供される報告会社の識別番号によって補完することができる。]

例: NL2017-123456789

この MessageRefID は、送信元の権限ある当局の国がオランダであり、情報が[報告会社の] 2017 会計年度に関係し、一意の識別子が「123456789」であることを示している。

DocRefID の一意の識別子は、一意のレコードを識別するために送信元の権限ある当局[または報告会社]によって使用される。これは、送信元の管轄区の国コード、データが関連する年、ダッシュ、一意の識別子の順で構成される。

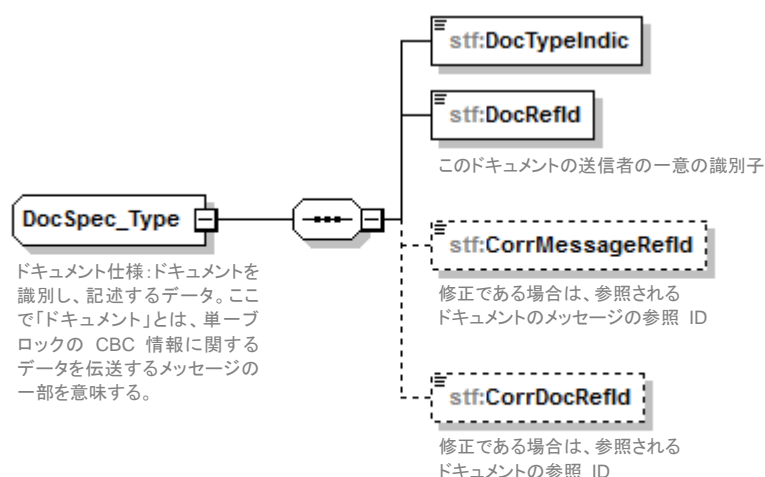
例: LU2019-286abc123xyz

この DocRefID は、送信元の国がルクセンブルグであり、データが[報告会社の] 2019 会計年度に關係し、一意の識別子が「286abc123xyz」であることを示している。

MessageSpec、修正および取り消し

修正メッセージには、後で再び修正できるように、自身の一意の MessageRefID が必要となる。メッセージ全体に関しては、DocSpecIndic と同等の要素はない。

メッセージ全体を取り消すために、MessageSpec.CorrMessageRefID を使用してはならない。この状況では、その代わりに修正メッセージを送信して、誤りのあるメッセージのすべてのレコードを削除する必要がある。



XMLSpy によって生成された

www.altova.com

以降の例は、DocSpec_Type 要素を使用して、以前に送信したデータの一部または複数の部分を修正する方法を示す。

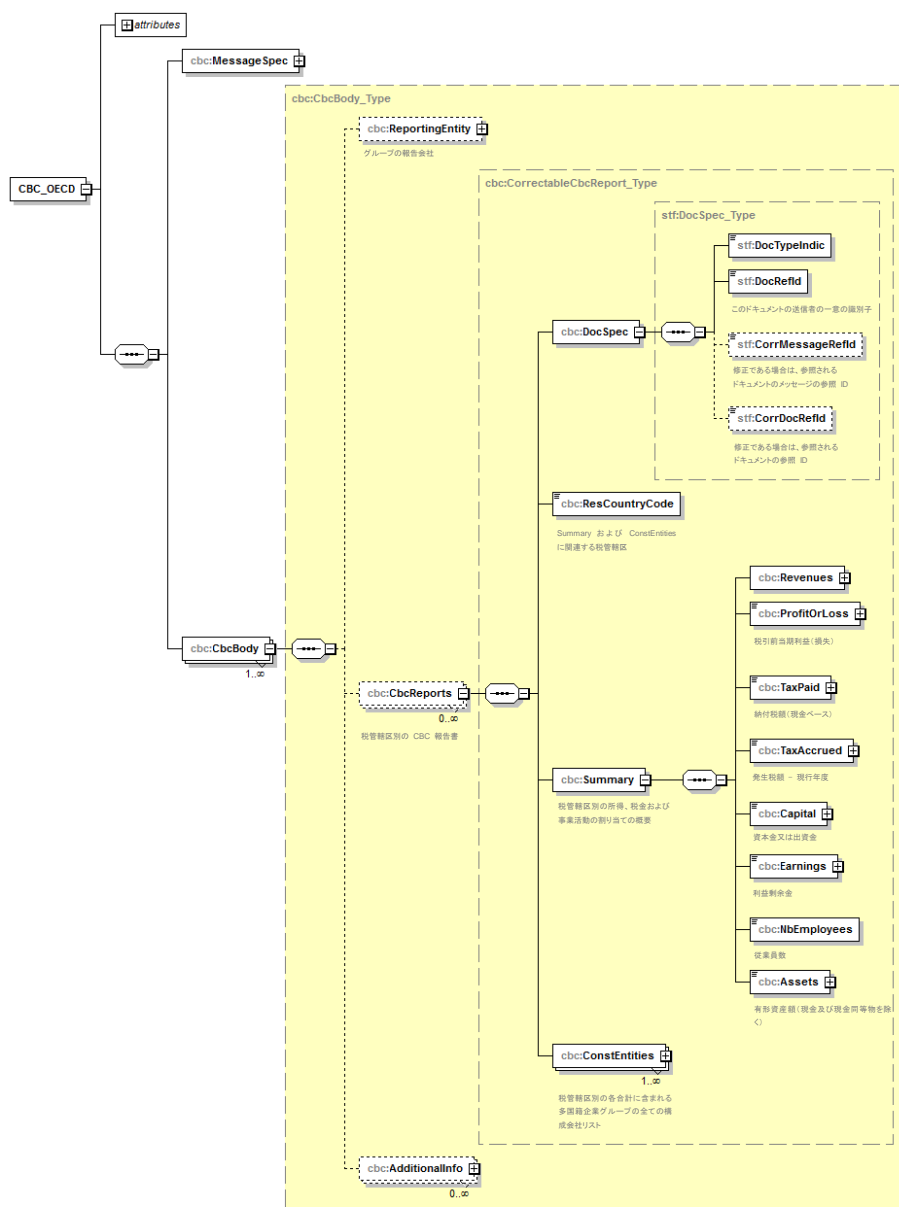
CbC 修正の例

最初の例: CbC 報告書の Summary に関連して修正を加える。修正は TaxPaid フィールドで行う。

修正ファイルは、フランスから送信される(新規データと修正されたデータの混合ではなく、修正のみが含まれる)。

MessageRefID: FR2017-FranceNationalPart00001

この修正では、全ての Summary 情報および ConstEntities 情報とともに、CbC 報告書全体を再送信する必要がある。ReportingEntity 要素は、この情報を修正する必要がある場合にのみ再送信する必要がある(それ以外の場合は、省略すべきである)。AdditionalInfo 要素と OtherEntityInfo 要素の内容は、その正確性に関して検証し、必要に応じて修正しなければならない。AdditionalInfo 要素を変更しない場合、この要素は省略する必要がある。



DocSpec が修正を示す。

DocTypeIndic:
OECD2 = 修正されたデータ

DocRefID: FR2017-456789
修正には、今後の参照のために新たな DocRefID が必要である。

CorrDocRefID:
FR2017-123456 は、修正を行う要素の DocRefID を参照している。

注: CorrMessageRefID: DocRefID が空間および時間において一意であるため、この要素は CbC には使用しない。

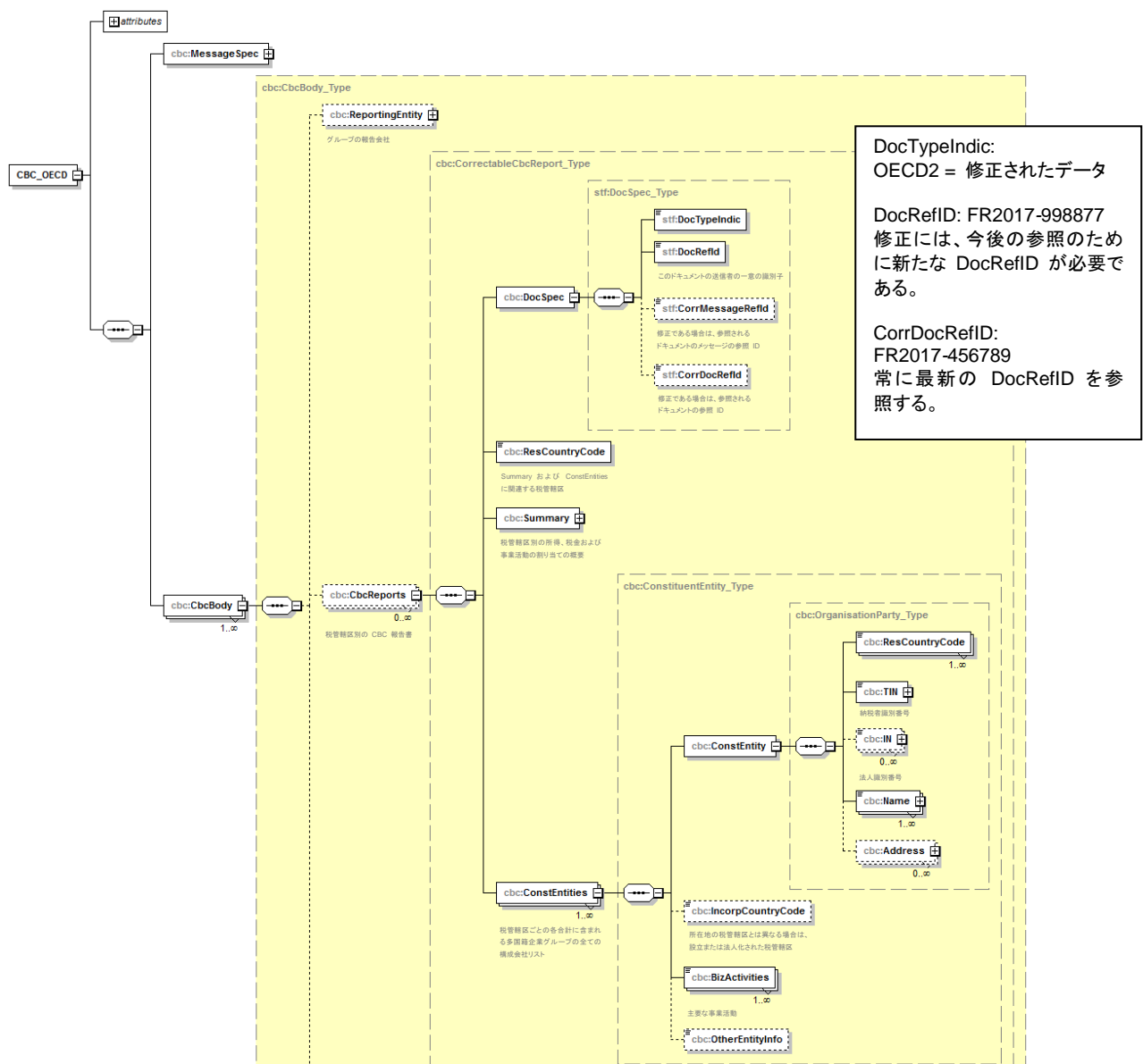
新たな「TaxPaid」は、100 米ドルである。前回は、異なる金額が送信されている。

全ての CbC 報告書情報も再送信する。

2 番目の例: 構成会社の複数の識別項目(名称と住所など)に関して修正を加えるが、Summary 情報は変更する必要がない。修正は、以前に修正したレコードに対して行う(したがって、最新の DocRefID: FR2017-456789 を参照しなければならない)。

この修正では、(Summary に変更がなくても)全ての Summary 情報および ConstEntities 情報とともに、CbC 報告書全体を再送信する必要がある。ReportingEntity 要素は、この情報を修正する必要がある場合にのみ再送信する必要がある(それ以外の場合は、省略すべきである)。AdditionalInfo 要素と OtherEntityInfo 要素の内容は、その正確性に関して検証し、必要に応じて修正しなければならない。AdditionalInfo 要素を変更しない場合、この要素は省略する必要がある。

MessageRefID: FR2017-FranceNationalPart00002



DocTypeIndic:
OECD2 = 修正されたデータ

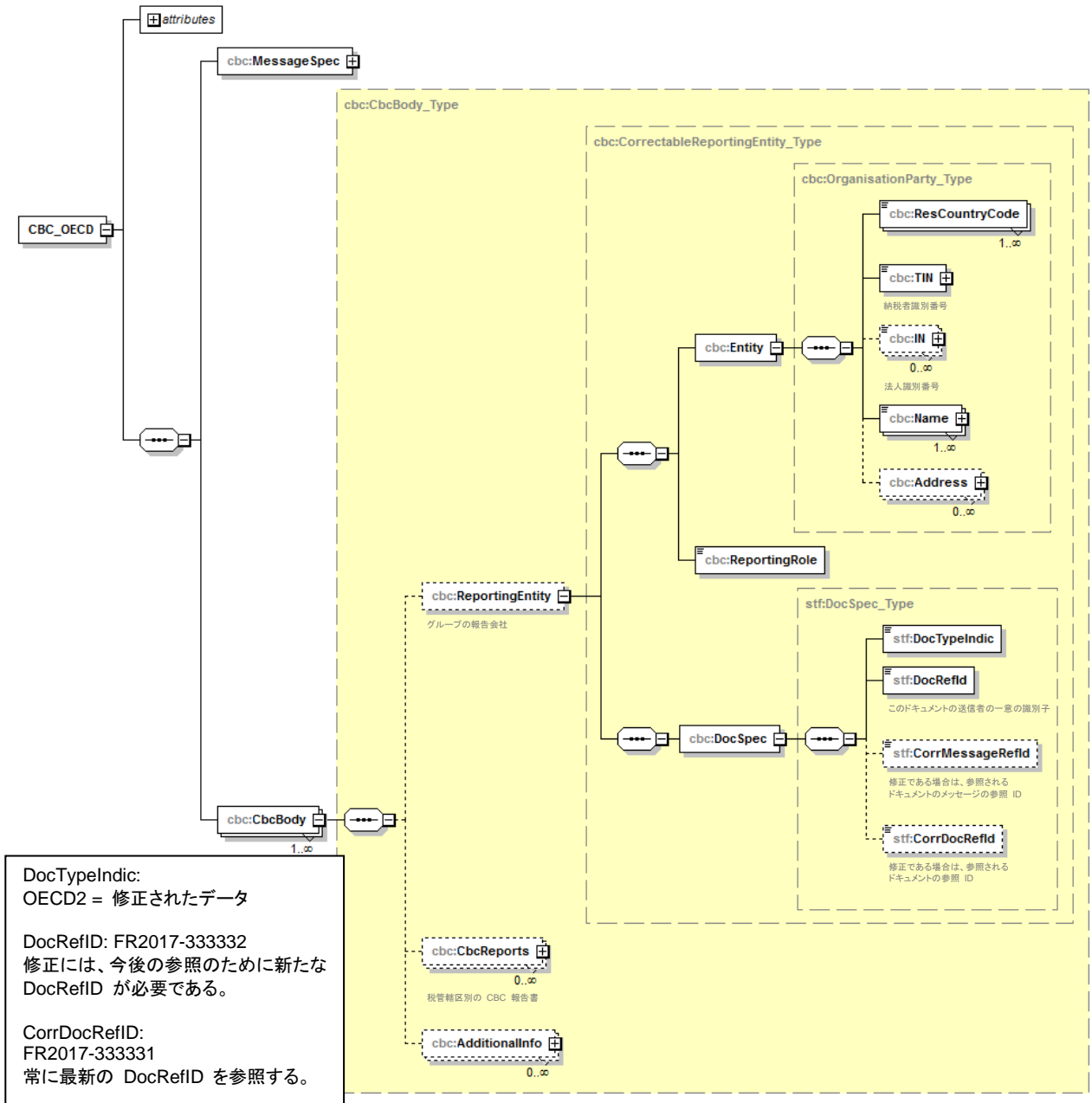
DocRefID: FR2017-998877
修正には、今後の参照のために新たな DocRefID が必要である。

CorrDocRefID:
FR2017-456789
常に最新の DocRefID を参照する。

構成会社の新たな名称および住所とともに、全ての CbC 報告書情報を再送信する。Summary 情報が変更されていない場合でも、CbC 報告書全体を送信する必要があるため、この情報も再送信しなければならない。

3 番目の例: ReportingEntity のみに関連して修正を行う。CbC 報告書や AdditionalInfo データを修正する必要はない。この修正では、その DocRefID を使用して修正対象の ReportingEntity 要素を参照しなければならない(この例では、以前の ReportingEntity の DocRefID が FR2017-333331 であったと仮定)。

MessageRefID: FR2017-FranceNationalPart00003.

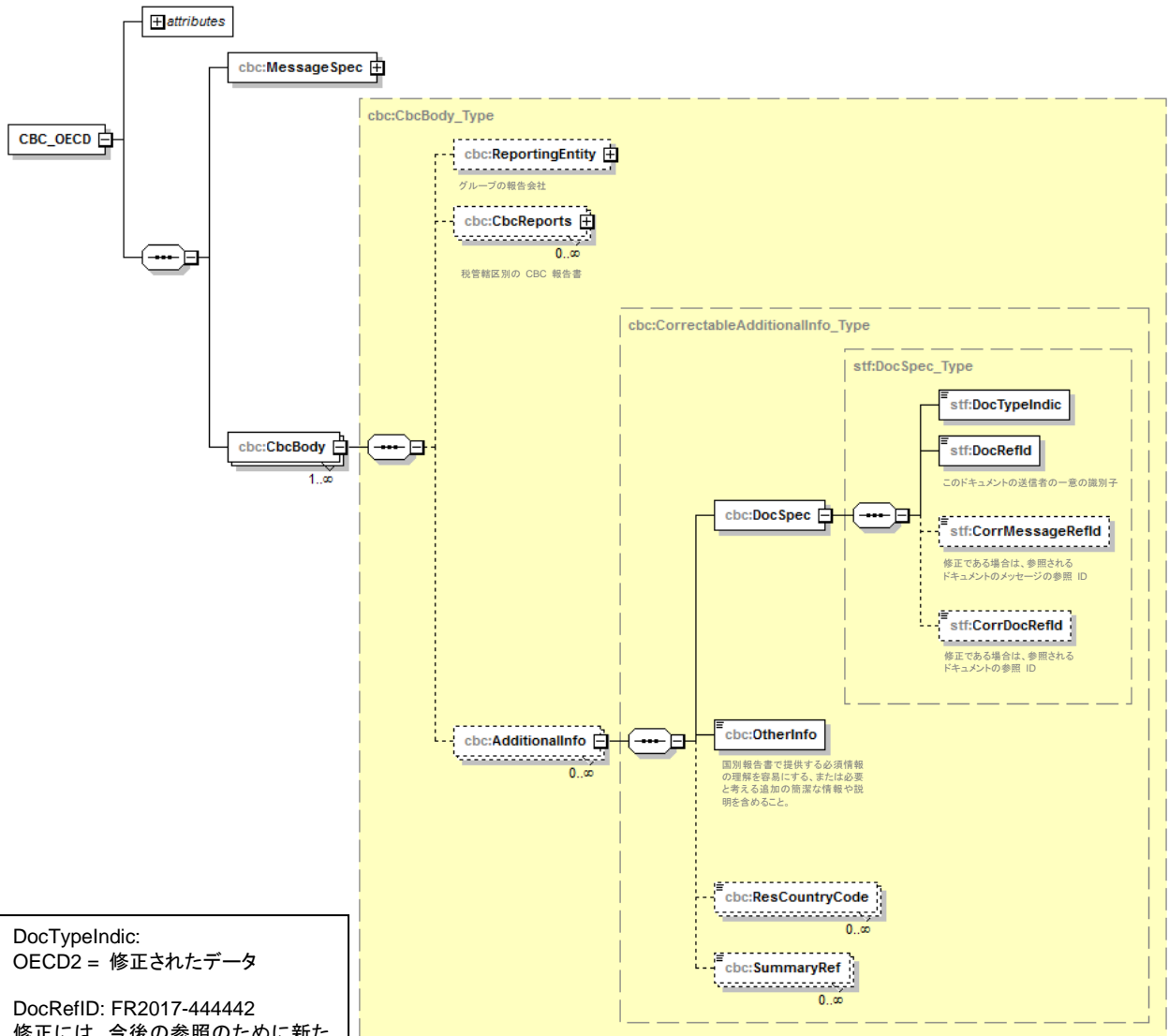


www.altova.com

CbCReport 要素や AdditionalInfo 要素のデータは修正する必要がないため、ReportingEntity 要素のみを修正として送信する。

4 番目の例: AdditionalInfo のみに関連して修正を行う。CbC 報告書や ReportingEntity データを修正する必要はない。この修正では、その DocRefID を使用して修正対象の AdditionalInfo 要素を参照しなければならない（この例では、以前の AdditionalInfo の DocRefID が FR2017-444441 であったと仮定）。

MessageRefID: FR2017-FranceNationalPart00004.



DocTypeIndic:
OECD2 = 修正されたデータ

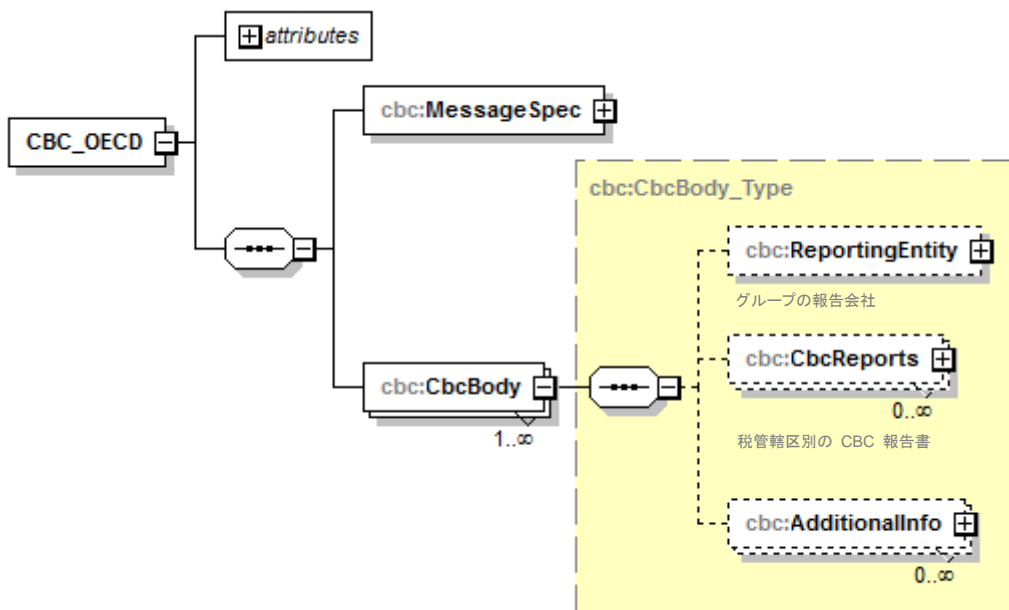
DocRefID: FR2017-444442
修正には、今後の参照のために新たな DocRefID が必要である。

CorrDocRefID:
FR2017-444441
常に最新の DocRefID を参照する。

CbCReport 要素や ReportingEntity 要素のデータは修正する必要がないため、AdditionalInfo 要素のみを修正として送信する。

付録 A

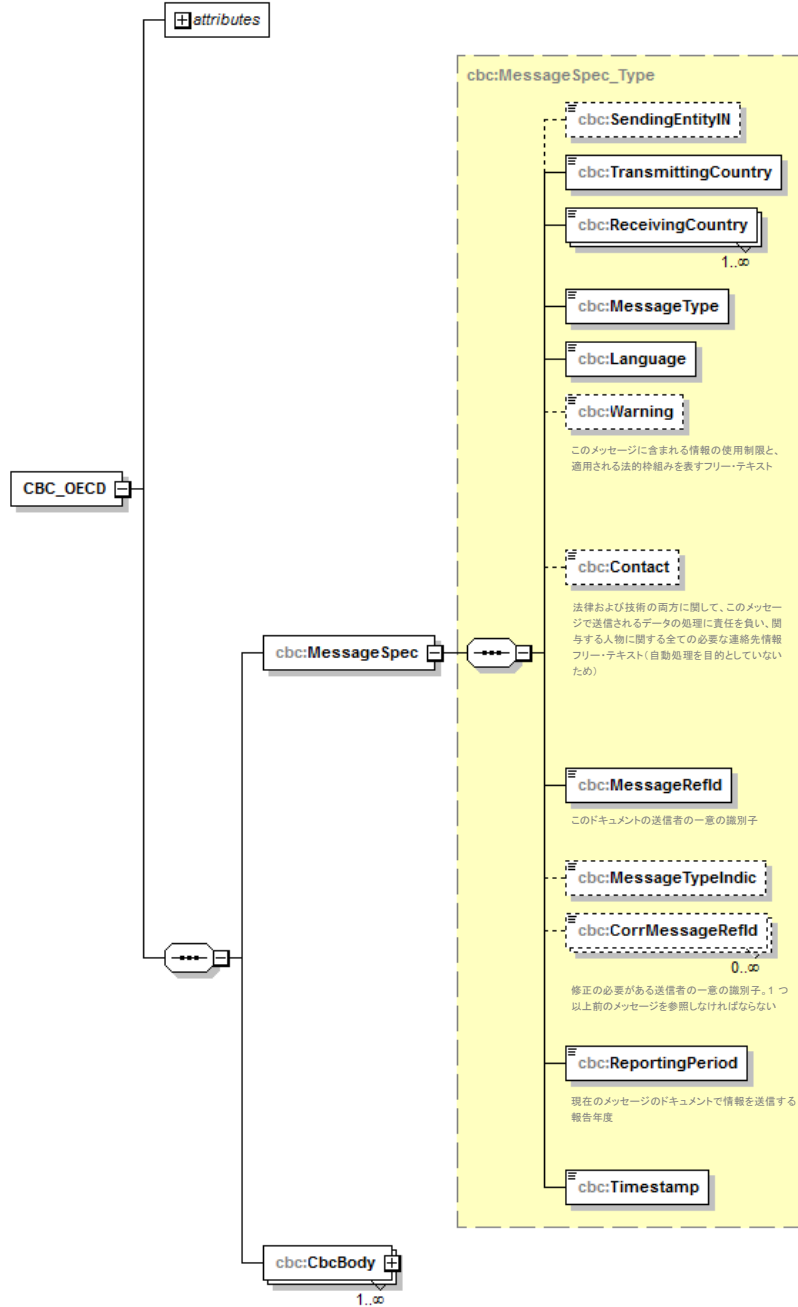
CbC XML スキーマ・バージョン 1.0 の図



XMLSpy によって生成された

www.altova.com

メッセージ・ヘッダー[セクション I]

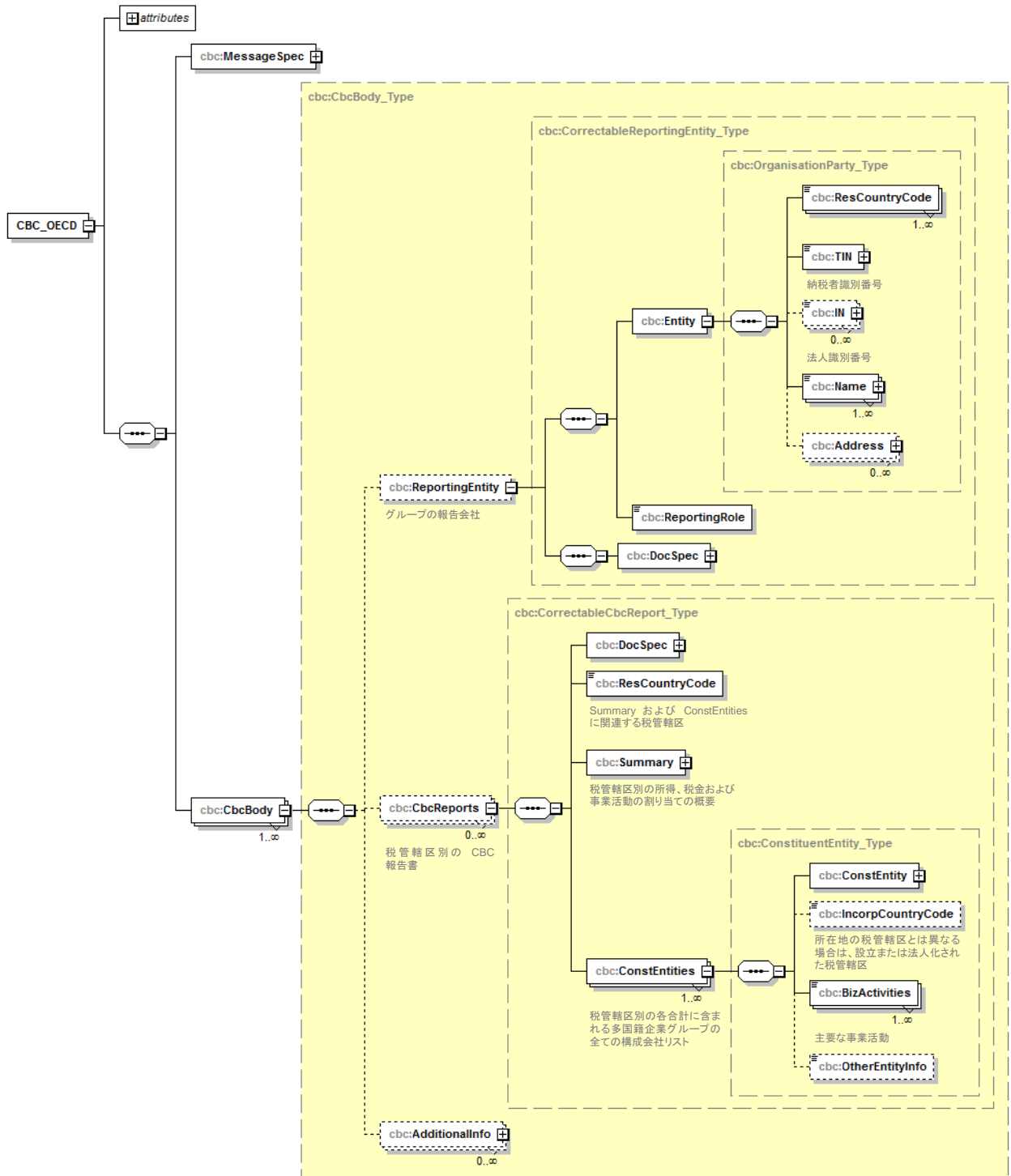


XMLSpy によって生成された

www.altova.com

実務的な理由で、この言語リストは ISO 639-1 言語リストに基づいている。このリストの使用は、OECD による、記載された領域の法的状況に関するいかなる見解の表明も黙示することにはならない。その内容によって、何らかの領域に対する主権や状況、国境および境界の決定、都市または地域の名称に影響が生じることはない。

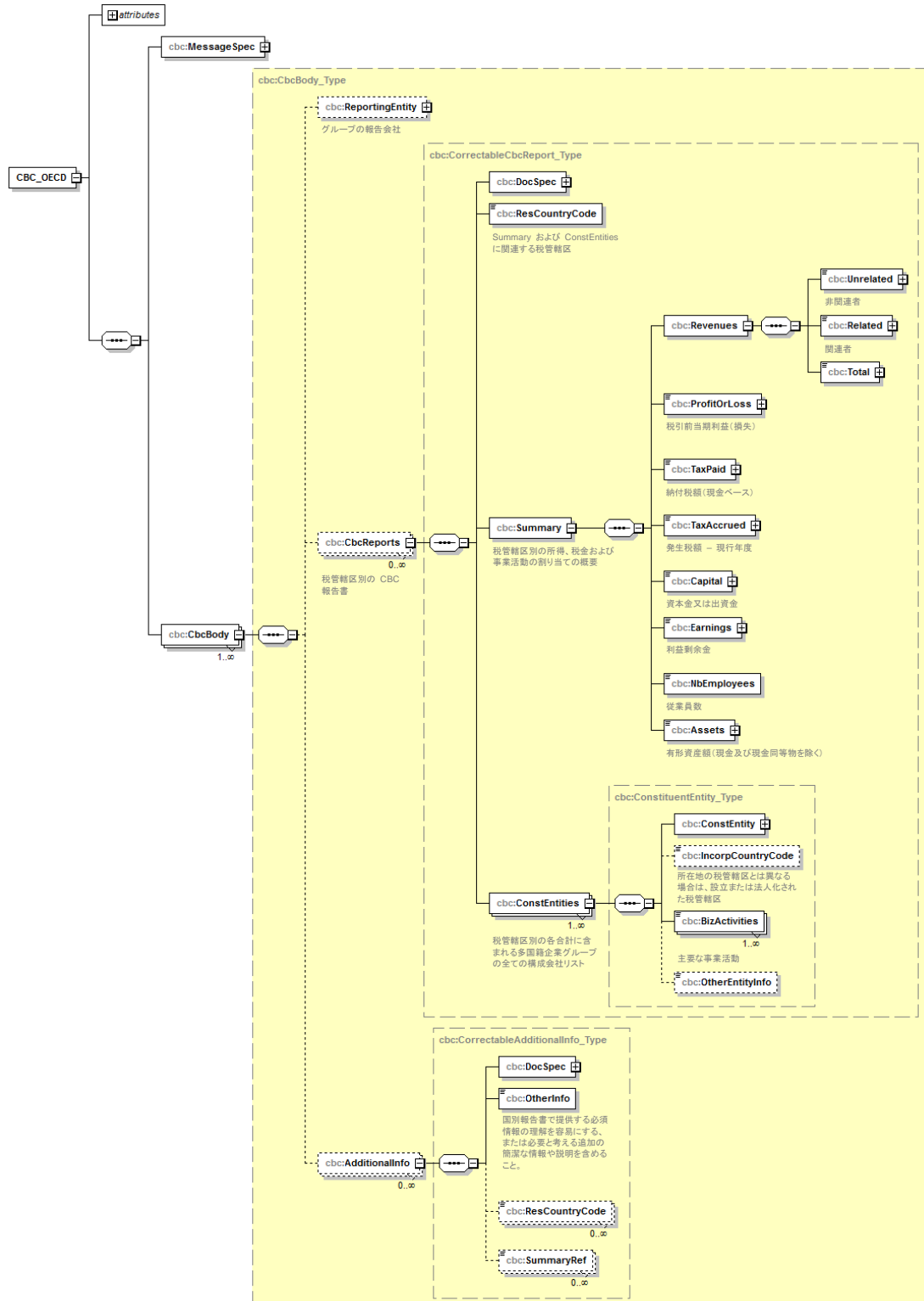
ReportingEntity[セクション IIIa]



XMLSpy によって生成された

www.altova.com

CbCReports[セクション IIIb]

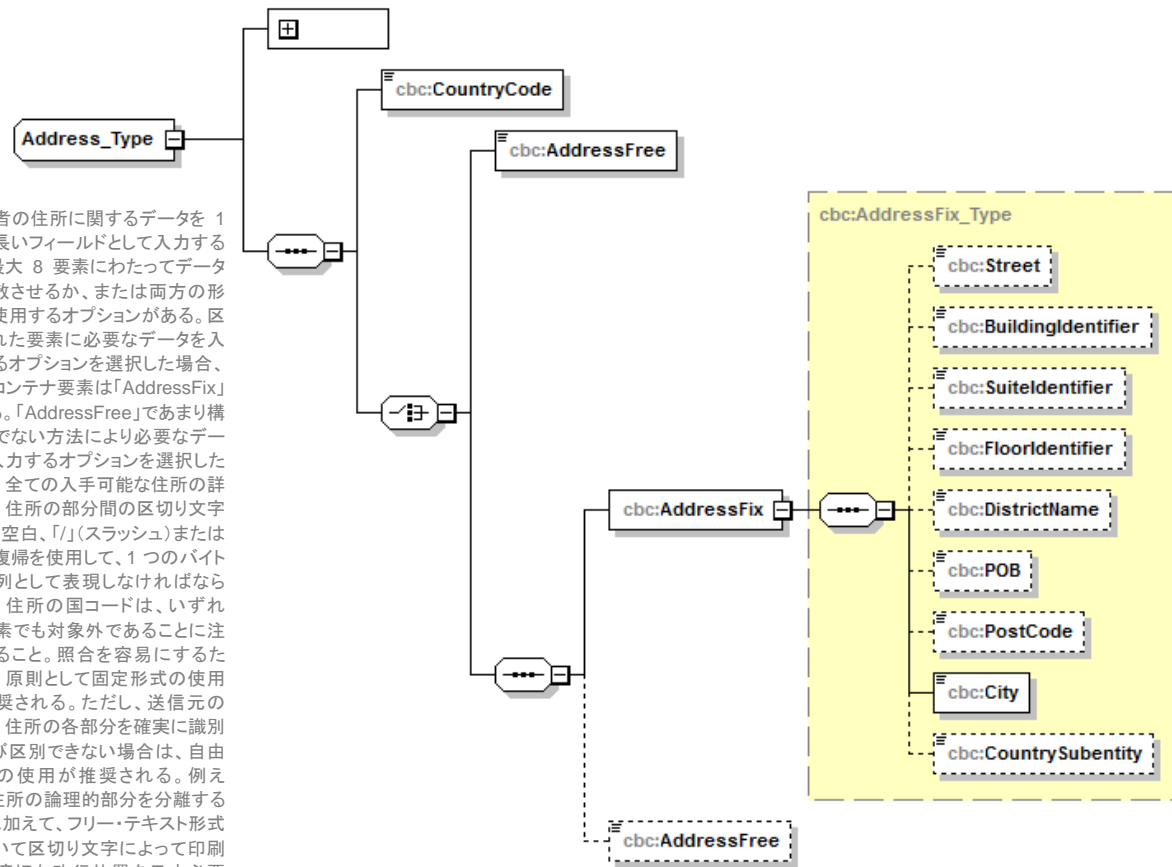


XMLSpy によって生成された

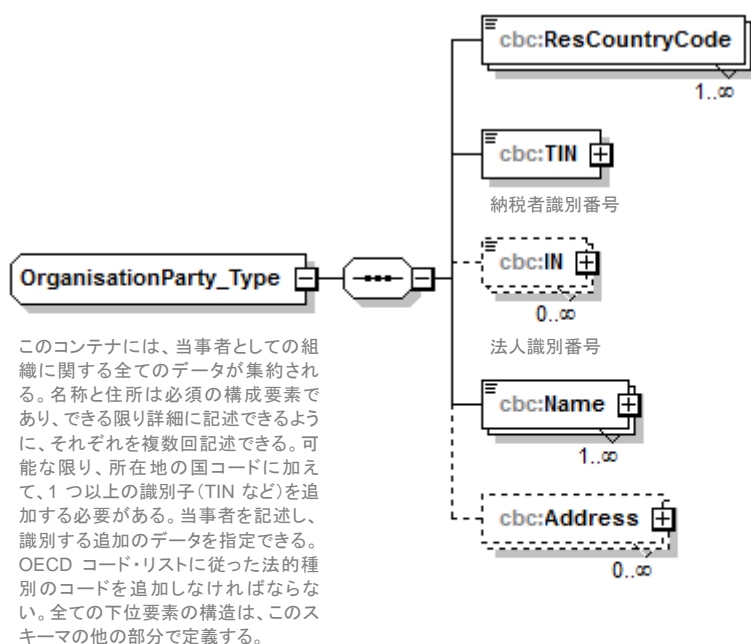
www.altova.com

Address_Type[セクション II]

当事者の住所に関するデータを 1 つの長いフィールドとして入力するか、最大 8 要素にわたってデータを分散させるか、または両方の形式を使用するオプションがある。区分された要素に必要なデータを入力するオプションを選択した場合、そのコンテナ要素は「AddressFix」となる。「AddressFree」であまり構造的でない方法により必要なデータを入力するオプションを選択した場合、全ての入手可能な住所の詳細は、住所の部分間の区切り文字として空白、「/」(スラッシュ)または改行復帰を使用して、1 つのバイト文字列として表現しなければならない。住所の国コードは、いずれの要素でも対象外であることに注意すること。照合を容易にするために、原則として固定形式の使用が推奨される。ただし、送信元の国が、住所の各部分を確実に識別および区別できない場合は、自由形式の使用が推奨される。例えば、住所の論理的部分を分離することに加えて、フリー・テキスト形式において区切り文字によって印刷行の適切な改行位置を示す必要がある場合は、両方の形式を使用したいかもしれない。その場合は、「AddressFix」を「AddressFree」に先行させる必要がある。



OrganisationParty_Type[セクション II]



XMLSpy によって生成された

www.altova.com

実務的な理由で、ResCountryCode リストは ISO 3166-1 国リストに基づいている。このリストの使用は、OECD による、記載された領域の法的状況に関するいかなる見解の表明も黙示することにはならない。その内容によって、何らかの領域に対する主権や状況、国境および境界の決定、都市または地域の名称に影響が生じることはない。

付録 B:名前空間の用語集

CbC XML スキーマ名前空間

名前空間	説明	ファイル名
cbc	CbC タイプ	CbcXML_v1.0.xsd
stf	OECD 共通タイプ	oecdtypes_v4.1.xsd
iso	ISO タイプ(国コードおよび通貨コード)	isobctypes_v1.0.xsd